（2）ニホンザル行動圏調査

赤谷プロジェクトでは、地元の赤谷プロジェクト地域協議会が中心となり、赤谷の森に生息するニホンザルの行動圏調査を実施しています。行動圏調査は、プロジェクトエリア３及びエリア４を遊動域としているナガイ群を中心に、電波発信器を取り付け実施しています。

赤谷プロジェクトでは、ニホンザルの生息状況の変動（群数、遊動域、各群の個体数、齢構成、性別、繁殖率）と餌となる植物の種類、量、分布、選択性、栄養価を調査し、それらの植生とニホンザルの相互関係を調べることで、エリア内におけるニホンザルの生息環境と影響を評価しています。

ニホンザルのモニタリング調査を行うことは、ニホンザルが利用している多様な植生・環境の保全につながり、それらが育む生物多様性の保全や生態系維持につながります。

今年度は、春期（３～５月）、夏期（６～８月）、秋期（９～11月）の間に、各１日づつ調査を実施しました。いずれの調査でも、ナガイ群は吹路集落から猿沢周辺の狭い範囲で活動しており、昨年度と同様、ナガイ群の集落依存度が増加傾向にありました。

ニホンザルの電波発信器による行動圏調査の様子

（3）ニホンツキノワグマの観察調査

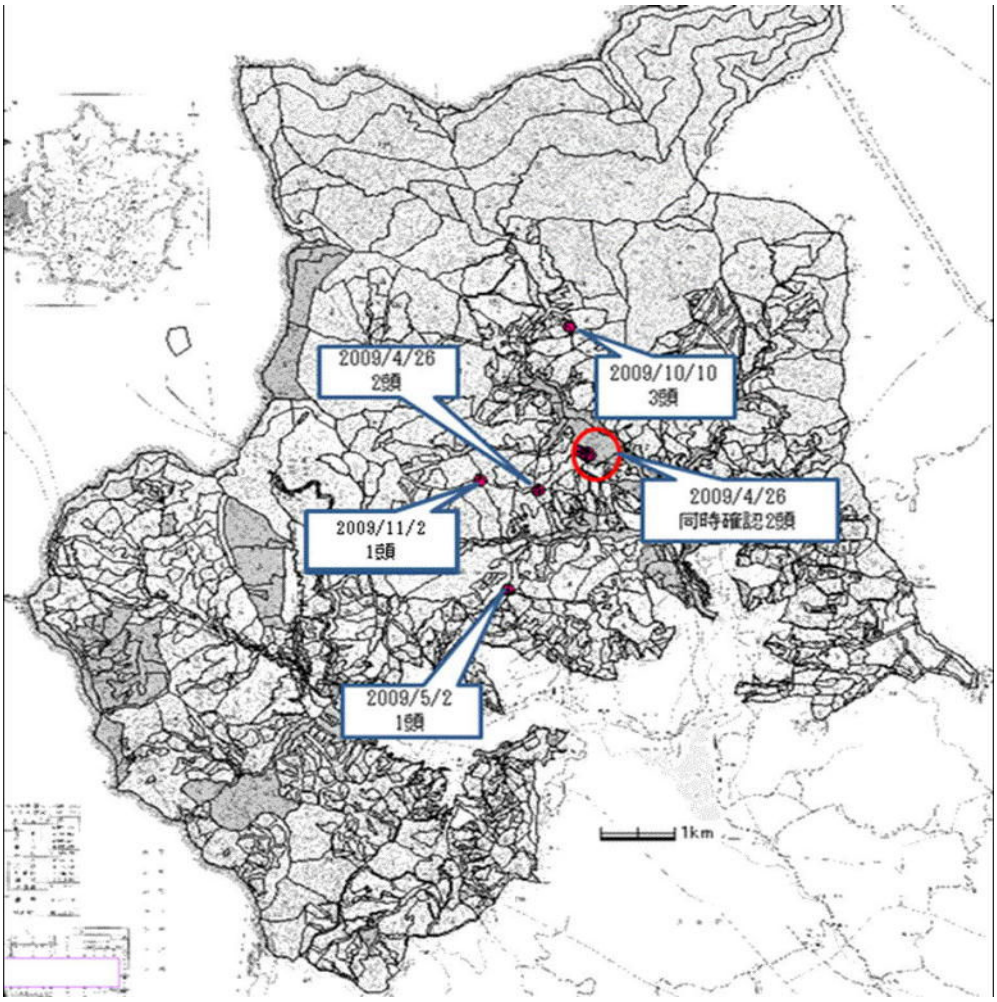
ツキノワグマは、森林生態系における食物連鎖の最高位に位置する種の一つであり、本種が生活できる生態系の中ではピラミッドの傘下の多くの生物種が生存しているため、生態系の保全、生物多様性の指標となります。プロジェクトエリアにおけるツキノワグマの個体群動態を把握することは、赤谷プロジェクトで進める生物多様性復元事業の効果を客観的に評価するための指標づくりの素材の一つとなります。

本年度は、基礎調査として、ニホンツキノワグマの地域個体群の生息分布の情報を収集するため、サポーターの全面的な協力を得ながら、４月下旬などに赤谷の森で現地踏査による目視調査及びクマ棚調査を実施しました。

この期間に調査を行った理由は、①広葉樹の葉が展開し始めた時期であり林床まで観察が可能、②ツキノワグマが樹幹に登って新芽を食べる時期であり発見しやすいことからです。

今年度は、８地点で目視され、最大同時確認個体数は、４月26日の４頭でした。10月10日には、１本のミズナラに３頭のツキノワグマが同時に確認されました。

ニホンツキノワグマが目視された地点



カメラトラップ調査から、今年度の出現分布範囲は、夏期に広く、秋期に狭くなる季節変化が認められました。

また、目視調査及びカメラトラップ調査からは、プロジェクトエリア南西部の合瀬エリアにおいてほとんど分布が確認されませんでしたが、クマ棚調査から同エリアにおける分布が確認されました。

これらのことから、ニホンツキノワグマは、赤谷プロジェクトエリアの広い範囲に分布することが確認されました。また、春に同時に４頭確認されたことから、プロジェクトエリア内には、少なくとも４頭は生息していることがわかりました。

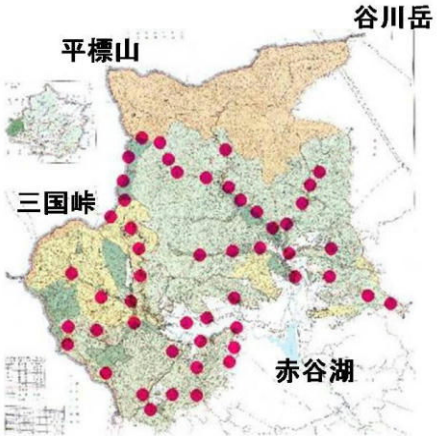
木登りをして堅果を食べるツキノワグマ（平成21年10月10日、星野理恵子氏撮影）

（4）カメラトラップを用いた動物相調査

昨年度から、赤谷プロジェクトエリア全域の動物相、各種の生育環境及びエリア内の分布状況やそれらの経年変化を把握するため、センサーカメラの永久固定点を51箇所設置しました。

永久固定点の箇所は、赤谷プロジェクトエリア面積約１万haを１kmメッシュで全域約140個となる内から林道や歩道からの距離を考慮し選定しました。

永久固定点では、毎年一定期間、センサーカメラによる調査を継続して実施します。今年度の調査は、８月18日～10月19日の夏期及び10月19日～11月30日の秋期の２回実施しました。



カメラトラップ設置地点

調査に用いたカメラ

撮影された動物（左ノウサギ、右ニホンカモシカ）

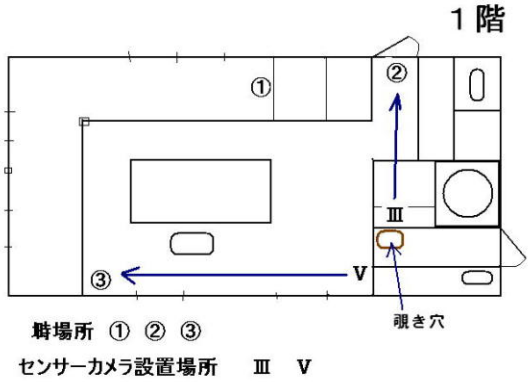
「赤谷の森」で、今年度撮影されたほ乳類は16種でした。昨年の調査結果と比べると、ホンドモモンガ、アナグマが新たに確認され、昨年確認されたイタチが今回の調査では確認できませんでした。これまでの２年間の調査で、17種類のほ乳類が確認できました。

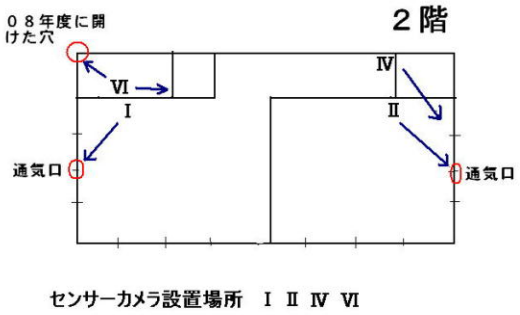
平成20年秋と平成21年秋とを比較すると、多くの種の分布傾向に大きな変化は認められませんでしたが、イノシシが平成21年に広域に出現したり、アナグマが平成21年のみ、イタチが平成20年のみに確認されるなど異なる点もありました。

平成21年夏期と秋期を比較すると、ツキノワグマ、ハクビシンは夏期により広域に出現するなど、季節間で出現場所が大きく異なる種も見られました。ニホンジカは従来確認されていない場所に出現しており、分布域を拡大している可能性があり、今後注意深くモニタリングしていく必要があります。

（５）いきもの村のムササビ

赤谷プロジェクトの活動拠点としているいきもの村は、昭和59年度まであった境野種苗事業所建物等を利用しています。平成17年５月の連休に行った「赤谷の日」（赤谷プロジェクト関係者とこのプロジェクトに賛同するサポーターが、拠点整備と各種調査研究を行う日）の夜に、天井裏から階段の下裏で物音がしたことから、板を剥がしたところ、ムササビが子育てしているのを発見しました。その後、赤谷センターでは平成18年度からセンサーカメラを天井裏に設置して観察記録をとるようになりましたが、平成21年５月１日に撮影されてから、ムササビの姿が写ることがなくなりました。





現在はⅠ、Ⅲ、Ⅴの３台設置しています。

最後に撮影した写真

最後に撮影した後もセンサーカメラを引き続き設置してきましたが、残念ながら姿を撮影することはできませんでした。再び戻ってくる可能性もあることから、引き続き継続して調査していくこととしています。